

終了(二〇:二五)

「タイム」 出合(二〇:〇〇) ↓ 廻行

デトサネ沢

一九八三年八月二〇日

七七八計独標から少し下るとデトサネ沢の源頭であった。一〇時五五分、沢の下降を開始。

デトサネ沢の方は概して平凡。ナメが断続的にでてくるだけで、滝と

いえるようなものもなく、観音堂沢

本流に出てしまった。わずか三〇分の下りであった。(記・西 和文)

「タイム」 下降開始(二〇:四五) ↓

観音堂沢本流(二一:二〇)

クロノ沢

上

一九八二年一〇月三日

クソハナ沢を下降して本流に出る。

クソハナ沢は滝の連続であった。最後に六計滝の左岸を捲いて本流に降

り立つ。滝とナメの連続する本流を

少し廻るとクロノ沢出合。今日の目的はこの沢だ。

倒木を越え、快適にナメを廻る。

やがて二計の小滝。直登する。この上もナメが続く。

小滝二つを越えてゆくと、水量は少したが、比較的大きい感じの小沢が合流する。

まもなく八計のナメ滝。左側を直登。和泉さんがスリップして、五計

程滑り台のように滑ってから止まる。すかさず脇にどいて見殺しにする。

少しすりむいた程度。油断をしているとこういふこともある。もつとも、ここはわざと滑ってみたい気さえ起

しかねないような所である。

すぐ上の小滝は何なくパスする。

右岸から水量の少ない小沢が合流した所で、出合から続いていたナメも終わる。

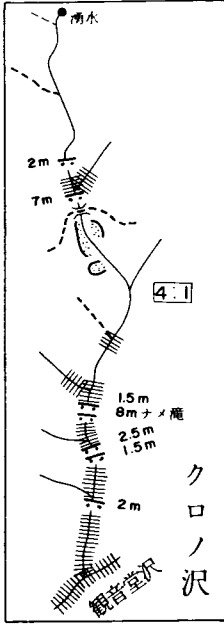
沢が大きく左に曲がり、しばらくゆくと、まず右岸、続いて左岸にガ

レ場が出てくる。こんな所が何で崩れているんだらうと考えながら近づくと、何と林道工事をしているではないか。押し出された土砂で沢が埋まり、「ズボ」とぬかる。ヒザから下はもうドロだらけである。

いったん林道に上がり、再び沢に戻って昼食。もう水量もずいぶん少ない。

再び歩き始める。すぐに七びの滝。左を直登。腰なわをだして後続の二人を確保。上はナメ。

小滝を越えると沢が逆S字状に曲がり、しばらくして二俣となる。左

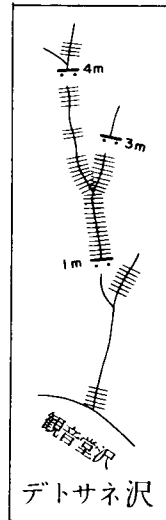


カイトキ沢を下降して観音堂沢の本流に下る。ワラジをつけ、ユノムラ沢出合まで進む。途中、至る所でイワナの姿を見た。それも二〇センチクラスである。今は禁漁期間であり、

ユノムラ沢

はカレ沢。右に入るが、すぐにカレてしまう。左岸にある湧水がこの沢の源のようだ。これで遊行終了。下降に移る。(記)

「タイム」 出合(一〇:二五)↓林道
(一一:三〇)~(一一:五〇)↓終了



一九八二年一〇月一日

イワナの方でも安心して姿を見せられるのだろうか。

ユノムラ沢に入ると、すぐに四びの滝があり、右岸を直登。フリクシヨンをきかせて登る。

このあとしばらくナメが続く。観音堂沢の流域は、全体にナメが多いのが特徴のようである。